

ぼくの心の強さと優しさのわけ・

おおつか
大塚 優剛

ぼくは、耳や歯や目に少しだけ病気を持っています。その分、家族には心配をかけて、また、ぼくのために沢山の時間を使っています。

ぼくは、生まれてすぐに、大きな手術をしました。じんぞうに関する手術で、十二時間もかかったそうです。この病気は今、治りましたが、手術していなかったら、命が危なかったとのことです。

小学校最後の夏休みに、一週間ぐらい、歯の手術のことで、入院しました。両親は仕事を持っていますが、入院期間中に、毎日ぼくのために面会時間も来てくれました。入院して一日目は、平気だったけれど、手術した夜は、辛くてなみだがありました。父と母は面会時間を過ぎててもぼくがねるまで痛い顔をなでてくれました。するといつのまにか安心してねむってしまい、夜を過ごせました。

このように、小さいころからいろいろな病院に通院しているので、父と母の休むことができる時間の多くがつかわれています。遠くの病院もあるので大変だけれどもいっしょに行ってくれます。母は、

「優剛の病気が一つ一つ治って、よくなることが一番うれしいから、大丈夫。」
と言ってくれます。

そして父は、この入院の少し前に、富士登山に日帰りで連れて行ってくれました。山頂近くは大雨で、早く降りたかったけれども、絶対に頂上をあきらめたくなかったので、頂上にがんばって登りました。下山の時に、父は、

「手術の前に、辛いこともあきらめないで、乗り越える強さを持つてほしい。」

と言ってくれました。父の強い思いが伝わりました。この事は、入院した時のがんばる勇氣につながりました。

父と母のぼくへの思いは、ぼくの心を強くしてくれました。この家族に生まれてきて、幸せだと思うのです。

ぼくは将来、困っている人を助けたり、ボランティアをする人になりたいです。家族から教えてもらった強さや勇氣や優しさをみんなに返していきたいです。

「お父さん、お母さん、ありがとう、これからもよろしくね。」